

Babul Akhter

私は洪水、サイクロン、津波といった自然災害が毎年のように起きるのが当たり前のような国で育ちました。バングラデシュの地理的な特殊性によって、非常に災害を受けやすい国となっているのです。バングラデシュの人口の大部分は農村地域に居住しており、大半が貧しい人々です。限られた資源では、突然でしかも大規模な災害による被害に対応することは非常に困難です。



私はマイクロファイナンスの融資を行う国家機構に勤務し、そこでバングラデシュにおける貧困の本当の姿を学びました。マイクロクレジットは、第三世界における貧困削減に対する現在進行中の対策において、最も効果的な方法であるといえます。我々は貧しい人々に援助を差し伸べるべし、土地も資産もない人々が収入を得て行けるようにしなければなりません。災害対策に加えて、我々はもっと国家の社会経済状況の改善に力を入れ、人々が諸外国の援助を受けずに自ら対処していけるようにしなければなりません。

私はアジア地域における災害問題において、さらに専門的な知識・技術を得るためにビジティング・リサーチャーとして ADRC に来しました。私はここに来るまで、このセンターがアジア地域の他の国々といかに結びつくことが出来ているかについて、ぼんやりとしたイメージしかありませんでした。また、世界の他の地域で災害対策がいかにして行われているのかを知りたいと思っていました。私はビジティング・リサーチャーとして ADRC の職務に携わり、災害情報普及のための幅広い能力を得ることができたことを非常に嬉しく思っています。また、在任中には日本にある様々な国際機構や政府を訪れて意見や考えを交し合うことができました。さらにバングラデシュにおける貧困や災害状況の実像を伝える発表の機会を持つこともできました。

多くの支援をしてくれた ADRC に感謝しています。ADRC では、みんな非常に友好的で、助けを必要とするときはいつでも手を差し伸べてくれました。人生における素晴らしい体験となりました。前向きで効果的な防災管理に関する知識、災害を受けやすい国々での情報交換を通じた強い国際協力関係の構築方法についての知識を得ることができ、私がまさに必要としていたことを学ぶことができたと思います。国に戻れば、ADRC のこの経験を生かして、より一層の貢献ができることと思います。

(ADRC ビジティング・リサーチャー、バングラデシュ財務省所管パリ・カルマ・サハヤク基金総務担当次長)